

ロシア留学体験談

4か月のロシア留学が終わった。留学に行く前や現地に到着した直後は不安や心細さを感じていたが徐々に生活や授業に慣れていくにつれて様々な体験をしてきた。私はこの留学の期間中に様々な興味や関心にたいして多くの行動を起こしていたと思う。私はとにかく暇な時間がないように毎日のスケジュールを組んでいた。大学に隣接するトレーニングジムには週に5～6日通い続けた。そのジムでいつものようにトレーニングをしていたある日少し驚きの経験をした。私が間違ったフォームでトレーニングをしていたら若いロシア人の男性が正しいフォームの指導をしてくれた。その人はスキンヘッドで二の腕や足にも刺青が施されていて話しかけられたときは率直に言って怖かった。ロシア語を流暢な口調で話していて必死に聞き取るも3割程度しか理解できなかったが彼はとても丁寧にかつ優しい顔つきで教えてくれた。後で聞いた話彼はそのジムのトレーナーとして活躍している人だった。その日以来彼とはジムで会うと挨拶や話をするようは仲になった。私はその時身をもって人は見かけによらないということを学んだ。それと町ですれ違うロシアの人々やお店の店員の人々の多くはあまり笑顔を見せない印象を受けた。一見すると近寄りたいたいがわからないこと訪ねてみるととても丁寧に教えてくれた。この留学では人の親切さや温かみに触れることが多くあったと思う。

人の温かみといえば寮内での生活でも多くの人に支えられていたと思う。寮生活では韓国人やイギリス人、中国人、ロシア人も多く滞在していた。中でも韓国人の留学生とはとても親しく交流をしていた。寮の部屋が2人1部屋だったがルームメイトも韓国の留学生でとても深い交流をしていた。授業も韓国の留学生と一緒にすることが多く、わからない問題や課題などがあって困惑していた時はとても助けられた。授業外でも自炊をするときも料理の得意な韓国の留学生が時々腕を振るってくれたりしたこともあった。逆にこちらから助けることも多々あったりしお互いに協調関係を築けていたと思う。一緒に買い物やお酒を飲みに行ったりしてとても充実した毎日を送っていたと思う。

私にとって留学とは人生における価値観を大きく広げてくれるものでした。留学へ行くか行かないか迷っているときに行くか決断したあの時の自分に感謝したいと思っている。仮に困ったことや不安なことがあっても助けを自ら求めれば必ず人は答えてくれると思う。そして困難や挑戦を目の前にしたときにあれこれ考えるよりまずはぶつかってみることが大切だと学ぶことができた。もしも後輩が留学に行くか行かないか迷っていたのなら私は迷わず行くべきだと助言するだろう。